

左派—右派—ファシズムの「図式化」

183 号の「編集後記」に「わたしは、物象化批判をしているので、その一つとして図式化批判もしているので、図表を使って判り易く説明しようとして、物象化の罠にはまってしまうことを畏れています。エンゲルスが、ヘーゲルへの先祖返り的になって、法則の物象化に陥った事例もあります。ですが、そんなことも言ってもらえないので、一度図表を作って、一つの仮の議論として出してみようかと思っています。」と書きました。

「図式化」が物象化になる恐れ

「そんなことも言ってもらえない」と書きましたが、問題は、判り易く書くということと、それで誤解を生み出していくということの兼ね合いで、これは、まさに、弁証法的な仮定法的展開なのだと思います。弁証法というと、エンゲルスの「弁証法の三法則」という図式化が想起されます。弁証法は対話的展開法なのに、それを法則として、しかも固定化する、まさに物象化が起きていました。その端的な例が、わたしの当事者性の、障害問題での「発達の弁証法」なるものです。「ひとは無限の発達の可能性をもっている、それを支援するのが周りの者の務めだ」という、「発達」の強要という抑圧の論理だと批判されていたことです。まだ、完全に消えたわけでないのですが、その抑圧性はすこしはとらえ返されているようです。

左右の図（表）式化

さて、判り易くを求めて、図式化の弊害をおさえたところで、それでも仮定的に図をしめし、それは過渡的に出していることだと強調しつつ、「図（表）式」を出してみます。

	左派（共産主義志向）	リベラル	保守	ネオリベ①	右派	全体主義	ネオリベ②—右派がビュリズム	極右—ファシズム
国家観	国境はない	国際協調・共生	国際協調・愛国	国境を越えた移動	愛国	国家主義	国家主義	国家主義
差別問題一般	反差別	人権擁護	曖昧・非対象化	経済原理での支配	差別的	従属国家形成	差別排外主義	差別主義
対資本主義	反資本主義	修正資本主義	資本主義の擁護	グローバルゼーション	封建制への復古主義	国家資本主義	新自由主義—自国ファースト	競争原理の貫徹
福祉政策	基本生活保障	福祉国家論	曖昧	福祉切り捨てのB-I	福祉の切り捨て・縮小	曖昧	抑止(教育は別)	抑止(教育は別)
対外国人	国際連帯	共生	選択的	労働力として受け入れ	排外主義	搾取の対象	ヘイト	ヘイト
性差別	反性差別	ジェンダーフリー	曖昧	能力主義	産む道具論・家父長制	能力主義	ヘイト	ヘイト
LGBTQ	多様性	多様性	障害としての人権	国際化として承認	障害	障害	ヘイト	ヘイト
夫婦別姓	多様性	多様性	選択制として承認	国際化として承認	「家族を壊す」	曖昧	ヘイト	ヘイト
障害問題	変革のキー	人権擁護	慈愛の対象	福祉の対象	優生思想	能力主義	ヘイト	ヘイト

図1 左右の図（表）式化

「図式化」したことの弊害の是正①—「左派」に関して

さて、「図1」は平面的な図・表なのですが、ここでの「全体主義」は一般的イメージとしては、「社会主義」を標榜した運動が惹き起こしアーレントが「全体主義」と規定した変異体です。で、わたしのイメージとしては、他の項と同一平面にはないというイメージです。三次元空間的なところで仮に表現すると、上から俯瞰した図に対する、立体図のイ

メージに譬えて、横から見るとすると、

左派（共産主義志向）

後期マルクス

1840 年代のマルクス／エンゲルス

レーニン主義

スターリン主義（全体主義）

図2 「左派」の変遷・歪曲体

「図式化」したことの弊害の是正②—「ネオリベ」に関して

これは「ネオリベ」にも同様に言えます。ネオリベ①は経済主義的グローバリゼーション原理の貫徹ですが、ネオリベ②は、政治主義的・差別主義的側面が強くなります。これも立体図的横から見た図のイメージです。尤も、三次元でなく四次元になるかもしれないのですが。

ネオリベ①

右派ポピュリズム・ネオリベ②

ファシズム

図3 「ネオリベ」の変遷

まとめ

「図2」「図3」の上下関係は、左派から見た「正義」論的高次—低次のとらえ方です。左派—右派の押さえ方がきちんと押さえられていない中で、図式化の弊害ということが言われる中でも、敢えて図式化することによって問題の所在をあきらかにするために、試みました。まだ、中身的にわたし自身によってもっと詰め得ることも感じているのですが（特に図（表）1）、これは試論的提出による議論の拡大と深化を求めている仮提起です。見られた方が、自分自身で、論考を深めていくことの参考にしてもらえれば願っています。

（み）

（「反差別原論」への断章」（114）としても）

